

アントレプレナーシップを育む高校事例

“50センチ革命”をテーマにした探究学習

金沢高校（石川・私立）

半径5メートルの身近なところから課題を見つけ、各々の学校に適した道筋で生徒たちのアントレプレナーシップを育む取組にチャレンジしている高校事例を紹介します。

CASE 1

地方で生きるうえで必要な 起業家精神を醸成したい

金沢高校では今年度から、2年生の総合的な探究の時間（以下、探究で生徒が選択する分野として、「起業家教育」を取り入れている。

同校の起業家教育の導入は2018年度にさかのぼる。この年に、中小企業庁の「学びと社会の連携促進事業（起業家教育）」に参加。地方創生や高校魅力化プロジェクトを手掛ける（株）Prima Designの藤岡慎一氏を講師に招いた「起業家教育プログラム」を実施した。この事業への参加を決めたのは、当時探究を担当する部署の副主任だった寺西望先生だ。

「地方で生きていくには、起業家精神が大事だと考えています。都市に比べて雇用機会や、消費者として楽しめるサービスなども多くはありません。受け身で雇用やサービスを得るのではなく、自ら新しい価値や機会を創って提供する側になった方が、生徒たちが自分の好きなこ

とをしたり、充実した人生を送れると思つています」（寺西先生）

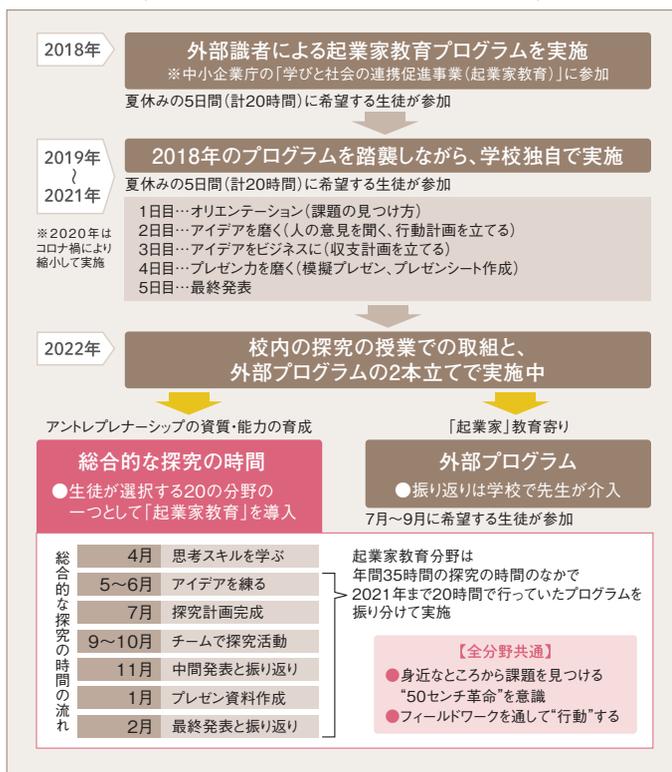
2018年の「起業家教育プログラム」は、夏休みの5日間で実施。1〜3年生の希望する生徒を対象とした。身近な人を幸せにする「50センチ革命」をテーマに、高校生活で感じる違和感を発見し、解決策を考え、アイデアをまとめ、プレゼンテーションを作成する手法を、地元で活躍する起業家などの講話も含め、理論から実践まで学んでいった。

「このときは企画から実施までを藤岡さんにお任せしましたが、プログラムのレベルが高く、生徒たちが消化不良な部分もありました。そこで、次年度からは本校の生徒に合わせて、理論の部分は減らし、実践部分に絞り込んだプログラムを自分たち教員が中心になってやってみようと考えました」（寺西先生）

生徒に育みたい資質としての 起業家精神は授業でも養える

取組を通して寺西先生が大切にしていたのは、「行動すること」だ。

金沢高校・起業家教育の流れ

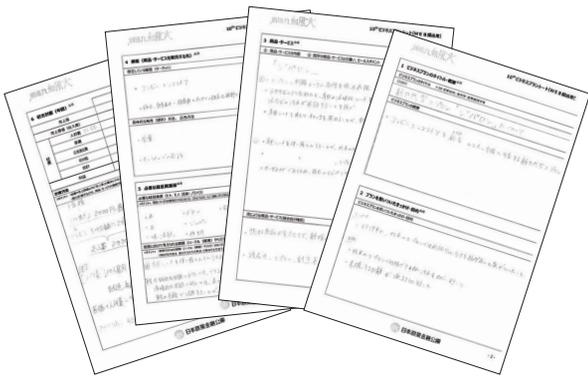


「課題を見つけるのも、解決策を探すのも、外に出て観察したり、人に話を聴いたりする行動や体験が欠かせません。だからフィールドワークを重視しています。元のプログラムの「50センチ革命」と

いうテーマは、生徒が身近なことから課題を自分ごととして捉えやすく、フィールドワークをするうえで動きやすい範囲という視点から大切にしていきたい切り口です」（寺西先生）



元・探究企画室 寺西 望先生（右）、森下広大先生（左）



今年度の探究で起業家教育を選択した生徒たちが現在進行形で作成しているビジネスプランシート。コンビニでのアルバイト経験から、課題を見つけ、全国のコンビニをターゲットとした商品開発を検討中。収支計画もびっしりと書かれている。



地元の起業家などからなる審査員の前で、自分たちのアイデアをプレゼンする生徒たち(写真は昨年度の実施例)。

探究では、生徒は2〜5人一組のチームとなり、チームごとに20の分野から選択して課題研究を行う。基本は学問ごとに分野を設定しているが、そのなか

失敗や行き詰まりも含めた体験と過程で学びが深まる

「自ら課題に向かって行動していくというアントレプレナーシップは、どの生徒にももってほしい資質・能力でもあります。すべての生徒が対象となるよう、探究の授業の選択肢として組み込むことにしました(寺西先生)

翌年以降も夏休みに希望者対象で実施してきたが、部活動に所属する生徒が参加しづらいことが課題だった。そこで、今年度は総合的な探究の時間に起業家教育を組み込むことにしたのだ。

「生徒たちにとって、課題も解決策も簡単に見つけられることではありません。行き詰まりも経験しながらそのときどきどうするか、自分一人ではなく、仲間と共に考える過程で学ぶことが大きいです。我々教員も伴走者として、すぐに答えを言わないなど、どんな声かけをするか生徒の学びが深まるのかを考える機会になっています(森下先生)

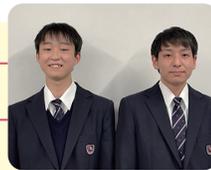
「生徒たちにとって、課題も解決策も簡単に見つけられることではありません。行き詰まりも経験しながらそのときどきどうするか、自分一人ではなく、仲間と共に考える過程で学ぶことが大きいです。我々教員も伴走者として、すぐに答えを言わないなど、どんな声かけをするか生徒の学びが深まるのかを考える機会になっています(森下先生)

「生徒たちにとって、課題も解決策も簡単に見つけられることではありません。行き詰まりも経験しながらそのときどきどうするか、自分一人ではなく、仲間と共に考える過程で学ぶことが大きいです。我々教員も伴走者として、すぐに答えを言わないなど、どんな声かけをするか生徒の学びが深まるのかを考える機会になっています(森下先生)

「生徒たちにとって、課題も解決策も簡単に見つけられることではありません。行き詰まりも経験しながらそのときどきどうするか、自分一人ではなく、仲間と共に考える過程で学ぶことが大きいです。我々教員も伴走者として、すぐに答えを言わないなど、どんな声かけをするか生徒の学びが深まるのかを考える機会になっています(森下先生)

体験することで、考える力が鍛えられる

2年生 小出啓太郎さん(左)、林 蒼太さん(右)



小出さん 僕たちは自転車通学をしており、金沢は雨が多いのですが、今売られている雨合羽ではどうしても足元が濡れることに課題を感じていました。僕たちのチームではそれを解決する商品開発を目指しています。まずはどんな雨合羽がいくらくらいで販売されているか、市場調査をしました。自分たちで作るとしたら原価がどれくらいかかるのか、素材の価格の相場なども調べました。競合する類似商品と比較しながら、どうしたら自分たちだけのアイデンティティを見つけられるかに苦労しています。

林さん 競合商品と比較しながら、価格競争でも負けないようにするには、特徴を絞り込んでそぎ落とさなければならぬということもあると考えさせられました。消費者とはどんな人なのかを考えるなど、社会で実際に行われているマーケティング

理想の商品を作る過程で、現実の社会的な段取りに沿って体験

「お客さんを集めるための方法に興味があったから」と、探究で起業家教育を選択した生徒に、現在進行形の授業についてお話を伺いました。

寺西先生は起業家教育について、自分なりの定義はまだできていないと言った。「起業家を育成するという目的ではなく、誰かを幸せにする解決策を見つけるといふ点において、他者の存在が大事な取組ではないかと考えています。探究全体では、自分の興味の範囲での課題でも良いのですが、起業家教育を選択した生徒には他者視点をより意識してもらえたらと思います。一方で、アン

「お客さんを集めるための方法に興味があったから」と、探究で起業家教育を選択した生徒に、現在進行形の授業についてお話を伺いました。

林さん 発表の機会が多いので、ほかのクラスやチームの人たちの考え方を知ることができ、「こんな見方もあるんだ」と刺激になります。ほかのチームと意見交換するとき、まずは自分の意見をかためてから視点の違う人の意見を聞く、そこからどんどん枝分かれしているようなアイデアが広がっていくのが楽しいです。商品開発という言葉を聞いたことはあっても、実際にやってみるとではまったく違うことに気づきました。体験してみても初めて、考える力や発想力が鍛えられるのだと知りました。

小出さん この授業を通して、人の話を聞いたり質問をされたときに、それが難しい内容だとしても、「これってつまりこういうこと？」と、自分が理解できるほかのことに例えて捉え直して考える、抽象化する力がついたと思います。振り返りがあるので、そのときに体験中に自分が悩んでいたことを反芻できているからだと思います。

寺西先生は起業家教育について、自分なりの定義はまだできていないと言った。「起業家を育成するという目的ではなく、誰かを幸せにする解決策を見つけるといふ点において、他者の存在が大事な取組ではないかと考えています。探究全体では、自分の興味の範囲での課題でも良いのですが、起業家教育を選択した生徒には他者視点をより意識してもらえたらと思います。一方で、アン

寺西先生は起業家教育について、自分なりの定義はまだできていないと言った。「起業家を育成するという目的ではなく、誰かを幸せにする解決策を見つけるといふ点において、他者の存在が大事な取組ではないかと考えています。探究全体では、自分の興味の範囲での課題でも良いのですが、起業家教育を選択した生徒には他者視点をより意識してもらえたらと思います。一方で、アン

寺西先生は起業家教育について、自分なりの定義はまだできていないと言った。「起業家を育成するという目的ではなく、誰かを幸せにする解決策を見つけるといふ点において、他者の存在が大事な取組ではないかと考えています。探究全体では、自分の興味の範囲での課題でも良いのですが、起業家教育を選択した生徒には他者視点をより意識してもらえたらと思います。一方で、アン

寺西先生は起業家教育について、自分なりの定義はまだできていないと言った。「起業家を育成するという目的ではなく、誰かを幸せにする解決策を見つけるといふ点において、他者の存在が大事な取組ではないかと考えています。探究全体では、自分の興味の範囲での課題でも良いのですが、起業家教育を選択した生徒には他者視点をより意識してもらえたらと思います。一方で、アン